

「縦串と横串」でなく「縦糸と横糸」に

にしだ かずみ
西田 一美

●連合奈良・会長

New Wave への寄稿が今回で2回目となります。2013年7月号で「ハリウッド女優の勇氣ある決断」と題して乳がん治療の様々な考え方について書かせていただいた時は、2回目が連合奈良会長という立場での寄稿になることは全く予想していませんでした。

自治労出身の私は、労働運動イコール自治労（運動）という感覚で30年以上取り組んできました。その間自治労の様々なステージで活動し自治労中央本部役員を6年間経験したこともあり、いわゆる「縦串」の中で様々な経験を積ませてもらい労働運動をしてきました。

それが、2015年11月に連合奈良事務局長、2017年11月から連合奈良会長という立場で、いわゆる「横串」に身を置くことになりました。

30年以上「縦串」にいて、急に「横串」として連合組織の中で運動を担うことになりましたが、それぞれの産別の考え方、運動の進め方、対外的な対応、OBとの連携等々すべて違いがある中で「連合」に結集していることを身をもって感じています。

連合は組織形態としては珍しい運営形態だと感じています。縦串である構成組織の代表者で構成された執行部が方針を作成し、実際の運動展開は横串である地方連合会が行うといった縦横連携プレイによって成立しています。

昨今、一部報道では政治スタンスをめぐり「連合分割」「連合股裂き状態」などと表現されることがありますが、まさに中島みゆきの「糸」の歌詞の通り連合は、「縦糸」と「横糸」で成立している組織であり、単純に分割や

裂けるということはありません。だと私は思っています。

さて、昨年11月から「女性会長」ということで、連合内外で取り上げていただくことが増えました。「女性〇〇」という言葉にはとても違和感があるのですが、現状としては「珍しい」ため仕方ないことかもしれません。私と連合宮崎の中川会長の二人が退けば、またスタート地点に戻るのでは意味がないと思っています。

連合奈良では、女性の参画拡大に向けて少しずつ取り組みを進めており、2点に絞り報告させていただきます。

一つは、人事のルールを変更し、女性の不在だった副事務局長のポストに昨年11月大会より2人の女性に就任してもらいました。また、次期に向けては副会長に女性の枠を設けることも検討しています。二つは、昨年「女性の未来塾」を開講し、今年も6月に第2回目を開催しました。大切なこと、心を打った言葉を誰かにきちんと伝える方法や、話し方伝え方等、女性のスキルアップに重点をおいた内容にしています。単にキャッチーな言葉を並べるのではなく、多くの人に「共感」してもらって運動がこれからの連合運動に不可欠だと思っています。

5月16日に「政治分野における男女共同参画推進法」が成立しました。努力義務で理念法、しかしこれを活かし連合のさらなる飛躍にむけて新たな展開ができるのは縦糸と横糸で織りなす柔軟で強靱な連合であると確信し、私も実現に向け取り組む決意をしています。